

作成日 2017/3/5

表題：A級ライセンス審判講習会

日時：平成 29 年 3 月 4 日

場所：東京 講道館 5 階 女子部道場

作成者：福井県柔道連盟：瀧波 英一郎

講習内容

国際柔道連盟試合審判規定（以後、国際審判規定）の解説及び、現在試験実施中のルール変更内容の説明が行われた。その内容は下記のとおり。

講習資料、添付 平成 28 年度 A ライセンス審判研修会 PDF を参照のこと。

今回説明する、現在国際試合で試験的に導入されている国際審判規定に関しては、今年の 世界選手権後に正式採用される予定ですが、ブリッジの姿勢や 1 本の判断等さらに修正される可能性がある。

また、全日本柔道連盟主催の大会では平成 29 年度 4 月 1 日以降の大会において新ルールが採用されるとのこと。

新ルールの大きな変更内容

1. 試合時間：男女 共に 4 分に統一される。

2. 技のスコア：「一本」と「技有り」のみとする。

・技有り 2 つでも「一本」同等としない。（合わせ技 1 本の廃止）

・一本の定義：基本定義に変更はありませんが、IJF では相当の強さと速さを持って概ねあおむけと言う解釈が主流になり、回りすぎや、投げた後引手を引いて横向きになった場合 1 本と判定されない）

・技有りの定義：従来の有効を含め技有りとする。

注意：今回の講習会では、上手くコントロールして投げた場合“スーパー 一本”など、日本では今までと同様の基準で、技の効果を見極めて判定を行う

3. 抑え込み時間：10 秒で「技有り」、20 秒で「一本」とする。

注意：正規の試合会場において、場外で抑え込みが行われたケースの場合、抑え込まれている選手が逃げて正規の試合場外に出た場合は、20 秒より前でも「一本負け」となる。また、抑え込んでいる選手が故意に会場外に押し出そうとした場合、待てをかける。ただし、地方大会の（正規の会場の大きさに満たない）場合、選手の不利益な状態に至った場合は「待て」とする等、申し合わせ事項で対応してほしい。

4. 試合の決着：規定時間 4 分において、技のスコア(一本/技有り)のみで決着し、指導差（ただし、累積 3 回の反則負け除く）では勝者を決しない（GS に突入する）

5. GS(ゴールデンスコア)：規定時間が終了した時点で両者にスコアの差がない場合、指導差の有無にかかわらず、GS に突入する。

- ・GS 前のスコア、指導は引き継がれ、スコアボードに反映される。
- ・技によるスコアが与えられた時点で GS は終了する。
- ・GS 中に指導が与えられた場合、与えられた選手がより多くの指導を受けた場合、GS は終了する。

注意：技のスコアは従来通りですが、指導差に関しては、例えば、白 1-青 0(白 2-青 0) の場合、青の選手が指導 2(指導 3)を取られた場合負けとなる。(白の選手は 1 回目の指導で負けとなる) また、白 1-青 0 の場合で GS 中両者に指導が入った場合、2-1 で白の選手が負けになる。

ただし、足取りの指導（2 回目：反則負け）に限り上記のケースに該当しない場合がある。

例：指導 青 2-白 1 で白の指導が足取りで GS に入った場合、GS 中に白の選手が再度足取りした場合、足取り反則まで青の勝ちとなる。(GS 中の足取り 1 回目は、他の指導と同等に扱う)

6. 罰則：指導 4 ではなく、指導 3 で「反則負け」となる。

・審判の作法や審判の理解を明確にするために、過去柔道着の握り方で罰則が与えられていたピストルグリップ、ポケットグリップなどの組み方について今後反則を与えない。

注意：ピストルグリップ、ポケットグリップなどの組み方について反則を与えないとありますが、あくまでも攻撃、又は攻撃動作中のみであり、その他の場合は（防御目的や消極的、組ませない、又は、標準的組み方でない）、直ちに指導を与える。

7. 組み方：標準的な組み方でない場合、直ちに攻撃しなければ「指導」を与える。

・ベアハグを行う場合、必ず片方の組手を持っていること、組手の無い状態で抱き着く行為は「指導」が与えられる。

・相手の袖口の中に指を入れる行為は今まで通り直ちに指導を与える。

・攻撃をしようとしなない、消極的な行為に対しては厳しく「指導」を与える。

・投技を準備するのに時間がかかることもあるため、組んでから攻撃を仕掛けるまでの時間を 45 秒に延長し、それまでに技がない場合は「指導」を与える。

・足をつかむ行為や下穿きを握る行為に付いては、1 回目は指導が与えられ、2 回目は「反則負け」が与えられる。

注意：投技準備は両者が正しく組んだ状態で、片方が防御姿勢をしている場合は、今ま

で通り早めに指導を与える。

標準的な組み方で無い組手を繰り返す場合、技の効果（技としての効力が有るか）を見極め、技の効力が認められない場合、偽装攻撃の指導を取る。

ベアハグ、足取りによるダブルスコアに関して、ベアハグや足取りされた選手が、技投を施しポイントがあった場合、投げた選手にスコアを与えた後、反則を犯した選手に「指導」を与える。

また、上記の投げ技のスコアがあった後、投げた選手の抑え込みは認められるが、反則を犯した側が切り返し、抑え込み入る事は認められない。

（投げた選手抑え込み→一定時間経過→反則を犯した選手が切り返し抑え込み（関節技）は認められない。直ちに待てをかける。ただし、抑えられた状態で、下から絞め技を施し、相手を落とした場合のケースは想定していないので、今後 IJF に確認する。）

1 回目の足取りに関しては、主審の判断のみで出して良い（試合を止めない場合）、異議がある場合は副審が取り消し動作を行い、問題があれば、合議 or ジュリに確認する。足取りの指導に関する表示方法は、今後、他の指導と区別され表示される可能性あり。

（現時点では、同じとなっている。）

勝敗が決する反則「指導」に関しては合議を行う方が望ましい。

8. 安全性：一本を防ぐために故意にブリッジの体制になった場合、「一本」ではなく、「反則負け」が与えられる。

（ただし、足取りと同じく、その後の一連の試合には出場できる。）

注意：現時点、IJF では額が畳に付き顎が上がった状態は全てブリッジとみなされて、反則負けとなっているが、日本国内の大会では今まで通りのブリッジの判断（アーチを描く）で判定を行う。

・「一本」や「技有り」のスコアを避けるために両肘で着地（時間差があっても）した場合は、「技有り」を与える。（方肘の場合は、従来の解釈通り、技の効果を認めない。）

9. 投技と返し技：取の攻撃に対して受が返し技を施した場合、自身の体が先に着地した選手が投げられたとする。

注意：IJF の翻訳では、体が先に着地した方とあるが、日本国内ではその技が、捨て身技なのか、返し技なのかを見極め判定すること。

例：内股を真捨身投げで切り返す場合、内股で投げられてから切り返したのか、内股の入る動作よりも前に捨て身に入り投げたのかを見極める。

10. その他：試合の判定間違いの訂正に関して、運営上のミスにより発生した勝敗の間違いに関しては、主催者側の判断（運営側のミスがあった事を選手、監督に伝え訂正すること、試合者や監督の同意は不要）で、再試合や GS を行う。